

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
観光分野	1-1	自然・観光資源を生かしたルートの周遊の促進	1-1-①	周遊ルートの魅力のPR・ツアーの企画	【市公式ポータルアプリに情報を集約し、サイクルツーリズム推進のまちをPR】 海と山に囲まれた地域の特性を生かした観光サイクリングルートの充実を図ります。また、なとりサイクルマップと併せて沿線の観光資源である「食」、「歴史」、「震災伝承」等のコンテンツを、季節による景観や開催イベントの情報と合わせ、随時発信・配信し、PRします。 【ツアー・イベントの実施】 名取市サイクルスポーツセンターを拠点に、各ルートの特性や参加者の目的に応じた多様なツアーやイベント等の企画を行います。また、ツアー等の実施に合わせてスタンプラリーの充実や、デジタル地域通貨を活用したポイント付与等インセンティブの導入について検討します。	令和6年10月に「第6回全国シクロサミットin名取」を開催し、シンポジウムやオリンピック出場選手等による基調講演を行ったほか、翌日には「Natori Super Cycle Day」と銘打って、民間事業者主催の各種自転車イベントを開催した。また、ゆりあげ港朝市、かわまちてらす閑上、陣中ファクトリーガーデンでもクーポン配付やはらこ飯の振舞いを行った。当イベントでは市HP・広報誌のほか、JR車内広告でのPRも行い、広く情報発信を行った。 名取市サイクルスポーツセンターの指定管理者の自主事業でツアー及びイベントを行い、合計42名の参加があった。市主催のサイクルツーリズム推進事業では「なとりサイクルツアー2024」として、デジタルスタンプラリーやinstagramフォトキャンペーンを実施し、214名が参加した。参加者には抽選で市の特産品等を提供した。	引き続き、ツアー・イベントの企画・実施、情報発信等を行っていく。 また「自転車利活用事業」では、官民連携イベント等や近隣観光施設と連携し、「Natori Super Cycle Days」と銘打って、サイクル週間を設定することで、全市的な自転車のまちづくりをPRした。 海と山に囲まれた地域の特性を生かした観光サイクリングルートの充実を図るほか、なとりサイクルマップと併せて沿線の観光資源である「食」、「歴史」、「震災伝承」等のコンテンツを、季節による景観や開催イベントの情報と合わせ、随時発信・配信し、PRする。
			1-1-②	シェアサイクル・サイクルバスの導入による周遊の促進	【市内の周遊の拠点における自転車のシェア】 名取駅等市内各地点へのシェアサイクルの導入について、サイクルスポーツセンター等で保有するレンタサイクルの活用も含めた検証・検討を行います。 また、西側丘陵地へのアクセスもしやすいe-bike(電動自転車)や、ロードバイク、クロスバイク等車種の充実も検討します。 【サイクルバスの導入】 市内を運行するバス事業者と協調した取組として、自転車とバスの相互利用による回遊の利便性向上や快適性が期待されるサイクルバス導入について検証・検討を行います。	名取市サイクルスポーツセンターのレンタサイクルでは令和6年度の実績は44,399件、名取駅で名取まちづくり(株)が実施するレンタサイクル事業では、令和6年の実績が、381件と、R4現状値(46,000件)と比較すると伸び悩んでいる状況。 シェアサイクルの導入に関し、レンタサイクルの利用状況を把握し、シェアサイクルの需要が見込めるか検討を行った。 サイクルバスの導入に関しては、令和5年度になとりん号の大幅な路線見直しを行っており、運行基盤の確保を優先した利用者の分析、ダイヤ反映を行ったため、サイクルバスの導入の検討には至らなかった。	レンタサイクル利用件数及びサイクルスポーツセンターの利用者数を増加させるため、情報発信や指定管理者と連携したイベントの開催を継続して行う。 サイクルバスに関しては、引き続き利用者の分析を行い、検討を行っていく。
			1-1-③	サイクリングルート沿線等の良好な景観形成	【サイクリングルート沿線等の良好な景観形成】 インバウンドを含む観光客にとって魅力的な景観の形成に向け、西部丘陵地からの眺望の確保やルートの環境整備を官民連携で取り組みます。 また、撮影ポイントと見所等のスポット紹介や情報発信に取り組みます。	魅力的な景観形成の面としては、高館山レクリエーション施設の維持管理や、五社山自然散策路等の路体管理、花いっぱい運動を実施した。 また、自転車ネットワーク路線の整備事業について、令和6年度補正より国庫補助の採択を受け、設計委託に向けた準備作業を行った。 撮影ポイントと見所等のスポット紹介や情報発信の面では、サイクルツーリズム推進事業で実施し、Instagramフォトキャンペーンでは参加者が市内で撮影した作品が複数投稿され、自転車でアクセスできる絶景スポットや撮影スポットの開拓につながった。	引き続き、五社山自然散策路等の路体管理、高館山レクリエーション施設の維持管理、花いっぱい運動等を継続し、魅力的な景観形成を図っていく。 また、自転車ネットワーク路線の整備事業について、令和7年度より設計委託を行い、詳細な整備手法を検討・整理したのちに、矢羽根型路面標示等の整備を進めていく。 情報発信の面では、令和6年度の写真キャンペーンで投稿された素材を活用し、市の広報やサイクルツーリズムHPでの情報発信に取り組んでいく。
	1-2	サイクリストの周遊をサポートするサービスの提供	1-2-①	サイクルラック・サイクルステーションの設置	【サイクルラック・サイクルステーションの設置】 市内各地域に設置を進めているサイクルラックの数を更に増やしつつ、サイクリストが休憩し、工具等使用できるサイクルステーションについて、官民連携による設置を検討します。また、協力店については、マップで確認できるよう情報発信も行います。	サイクリスト受入環境整備補助金事業を実施したが、令和6年度の活用実績はなかった(令和5年度は1件補助金を活用し、サイクルラックを設置した。))。	令和7年度も5件分の同補助金事業の予算措置をしており、サイクルラック設置数の増加に向けて、補助事業の情報発信を積極的に行う。

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
サイクルツーリズムで繋ぐ、引き込む、楽しむまち	1-3	広域連携による取組の推進	1-3-①	「震災復興・伝承みやぎルート」へのサイクリスト誘致	【サイクルツーリズムのシンボルロードのPR】 ルート全線のゲートウェイ機能である仙台空港、サイクリストに「優しい宿」として整備されたサイクルスポーツセンター「輪りんの宿」、「震災復興伝承館」等伝承施設をつなぎ各市町にまたがるシンボルロードとして、国内外のサイクリスト誘致の情報を発信します。 【広域連携によるイベントの誘致・開催】 県、沿線ルートの市町、団体と連携し広域的な活性化を図るイベントを誘致、開催します。 【広域からのサイクリストの市内周遊促進】 市域外から訪問したサイクリストが、各観光スポット等を周遊する自由度が上がるような市域内外のルートの案内や、案内看板等の整備を検討します。	サイクルツーリズムのシンボルロードのPR、広域からのサイクリスト周遊促進としては、サイクルツーリズム推進事業でデジタルスタンプラリーやInstagramフォトキャンペーンを実施し、作成したチラシに「震災復興・伝承みやぎルート」と「みやぎ県南浜街道ロングライドルート」の2ルートPRする。 また、令和7年度も各民間事業者や名亘地場産業振興協議会と連携し、広域連携イベントを実施していく。 令和7年実施予定の「自転車利活用事業」では官民連携イベント等や近隣観光施設と連携し、「Natori Super Cycle Days」と銘打って、サイクル月間を設定することで、全市的に自転車のまちづくりをPRすることで、サイクリストの市内周遊を促進する。	
			1-3-②	公共交通等による広域周遊との連携	【自家用車・バス等と組み合わせた周遊ツアーの造成】 サイクリングルート沿線等における特色のある風景や施設をスポット抽出した走行を可能としつつ、初心者向けに長距離走行の負担を軽くするため、交通機関と連携した周遊ツアーの造成等を検討します。 【レンタサイクルの利用の拡充】 サイクルスポーツセンターで保有するレンタサイクルを複数日の貸出し等、利用者のニーズに沿った対応を行い、広域周遊の拡大を図ります。	R6年度は自家用車・バス等と組み合わせた周遊ツアーは実施していないが、「なとりサイクルツアー2024」では自転車の参加者、「名取・仙台沿岸周遊キャンペーン事業」では自家用車の参加者が中心となっていた状況を踏まえ、自転車と自家用車・バス等と組み合わせた周遊ツアーの検討を行った。 また、レンタサイクルの利用については、名取市サイクルスポーツセンターのレンタル自転車の利用件数がR6は44,399件で令和4年度の現状値からは減少している。 今後は、公共交通機関を活用したツアー造成の検討、既に造成済みツアーの磨き上げとして検討を行う。 また、名取市サイクルスポーツセンターの施設利用及びレンタル自転車利用を促すため、指定管理者と連携し情報発信をさらに強化していく。	

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
	1-4	「人力で旅する文化」の醸成・情報発信	1-4-①	「人力で旅する文化」の醸成	<p>【人力で楽しむ観光コンテンツの造成】</p> <p>サイクルスポーツセンターや名取トレイルセンターを拠点に、サイクリングをはじめ、トレッキング、カヌー等の人力で楽しむコンテンツを創出し、キャンプ体験等野外イベントを開催します。</p> <p>【複合型アクティビティの創出】</p> <p>自転車で山地や沿岸へ移動し、移動先での自然を活かしたトレッキングやサップ体験等、複合型のアクティビティの創出を検討します。アクティビティのスポットには自転車を安心して駐輪できる場所を確保します。</p> <p>【「人力で旅する文化」の情報発信】</p> <p>サイクルスポーツセンターと名取トレイルセンターを活用した人力の旅のブランド化を意識した情報を、市公式ポータルアプリに集約し、国内外に発信します。</p>	<p>人力で楽しむ観光コンテンツとして、名取トレイルセンターにおいて野外活動体験やみちのく潮風トレイルウォークin名取を実施した。</p> <p>また、ブルーツーリズム推進支援事業では、サイクルスポーツセンターを会場としたBBQコンテンツの造成や、かわまちてらす閑上前を会場としたSUP体験イベント、サーフィン国際インストラクターによる初心者向けサーフィンセミナーを開催した。</p> <p>情報発信としては、「人力で旅する文化」を発信する街 名取」の懸垂幕作成並びに市役所正面玄関への設置、サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHPでの情報発信を行った。</p> <p>複合型アクティビティについては、SUP体験イベントを開催したが、トレイルやサイクリングと連動したものでなく、複合型アクティビティの創出には至らなかった。</p>	<p>名取トレイルセンターを会場に野外活動体験や環境フェア、トレイルウォークイベント、SUP体験コンテンツを実施する。</p> <p>情報発信についても、サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHPのほか、各イベントと連携した情報発信を行う。</p> <p>複合型アクティビティの創出については、引き続き情報収集を継続する。また、サイクルラック設置数を増やすため、補助事業の情報発信を積極的に行う。</p>
			1-4-②	市民意識の醸成によるトレイル文化の浸透	<p>【トレイル文化の浸透】</p> <p>官民連携のシンポジウムやウォークイベントを開催し、市民等が「みちのく潮風トレイル」に親しみを持ったための仕掛けづくりを行うとともに、トレイル憲章の浸透を図ります。</p> <p>【まちぐるみでのハイカーへの支援】</p> <p>トレイル文化を支えるサポーターのボランティアやハイカーを支援する店舗等を募り、人力で旅する文化の推進に向けた機運の醸成を図ります。</p>	<p>10月にみちのく潮風トレイルウォークin名取を開催。</p> <p>31名の参加者がみちのく潮風トレイルを歩いた。</p> <p>また、トレイル文化を支える店舗等に掲示するタペストリーを作成。</p>	<p>令和7年度も、トレイルウォークイベントを実施した。名取トレイルセンターを会場に行う環境フェアにおいてトレイルウォークイベントの周知及び募集受付も行った。</p> <p>トレイル文化を支える店舗等にタペストリーの配布および掲示を依頼する。</p>
	1-5	ユニバーサルデザイン・おもてなしの充実	1-5-①	ユニバーサルデザインによる環境づくり	<p>【ユニバーサルデザインの推進】</p> <p>インバウンド観光客への対応として、サイクリングルート沿線の看板・施設における多言語表示等、ユニバーサルデザインに配慮した情報発信に取り組みます。また、情報発信にあたっては、デジタル媒体を最大限活用します。</p>	<p>インバウンド受入環境整備補助事業により、飲食店の看板やメニュー表の多言語化や、Wi-Fi導入費用を促進した(申請件数6件)。</p>	<p>引き続きインバウンド受入環境整備補助事業を行い、飲食店の看板及びメニュー表の多言語化や、Wi-Fi導入費用などを促進する。広報やHPでの継続的な情報発信を行う。</p>
			1-5-②	おもてなしの充実	<p>・官民連携によるサイクリストに優しいまちづくりサイクリングルート沿いの飲食店等に協力を呼びかけ、サイクルステーションの設置を推進するとともに、歓迎の看板、のぼりの設置や官民連携のイベントの実施等を検討します。</p> <p>・観光ボランティア等の配置</p> <p>自転車の伴走による観光スポット案内・説明から、日本の文化やマナー、また交通ルール等を知る機会を提供するボランティアやガイド・通訳の配置等を検討します。また、この観光ボランティアに「愛称」を付し、存在感をPRします。</p> <p>・Wi-Fi環境の整備</p> <p>店舗等における無料Wi-Fiの環境整備を促進し、サイクリストの情報取得の円滑化を図ります。</p>	<p>サイクリスト受入環境整備補助事業を実施したがR6年度の申請は0件だった。</p> <p>また、「第6回全国シクロサミットin名取」と同時開催したイベント「Natori Super Cycle Day(ナトリ・スーパー・サイクル・デイ)」では幟旗を3種類作成し、市施設及び民間施設に掲示し、PRを行った。</p> <p>同イベントでは、宮城県サイクリング協会主催の「2024 MCA 秋の 100kmライド 名取・丸森」を同時開催イベントとして実施し、市内のサイクリングチームによる自転車伴走支援を行い、初心者にも優しいサイクリングイベントとなった。</p> <p>また、名取市インバウンド受入環境整備事業補助事業ではWi-Fi環境整備も補助対象とし、2件の実績があった。</p>	<p>令和7年度においても、官民連携イベント等や近隣観光施設と連携し、「Natori Super Cycle Days」と銘打って、サイクル月間を設定することで、全市的に自転車のまちづくりをPRする。</p> <p>また、市主催のイベント等で、ボランティアやガイド、通訳の配置等を検討していく。</p> <p>・Wi-Fi環境の整備においては、補助事業を継続し、引き続き店舗等における無料Wi-Fiの環境整備を促進し、サイクリストの情報取得の円滑化を図る。</p>

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
健康・環境分野 自転車で健康増進、ゼロカーボンによる持続可能な社会の実現	2-1	気軽な自転車利用の推進	2-1-①	エコ通勤の啓発や事業者に対する自転車通勤導入の促進	<p>【エコ通勤の啓発】</p> <p>市内就業者へ自転車の気軽な利用を促進し、自転車通勤への転換を図るため、エコ通勤によるメリット(環境負荷低減、健康増進等)の情報発信や、リーフレット等による啓発活動を実施します。</p> <p>【「自転車通勤推進企業」宣言の支援】</p> <p>市内事業者へ「自転車通勤推進企業」宣言の周知を行い、宣言企業、優良企業の認定に向けた取組を支援します。</p> <p>【名取市役所の「自転車通勤推進企業」宣言の企業認定】</p> <p>市内の事業者に先行して、名取市役所における宣言企業・優良企業の認定を目指します。</p>	令和5年に、エコ通勤に関する取組を積極的に推進している事業所(エコ通勤優良事業所)として、名取市役所が認証・登録されたことを受け、市民や市内事業所への働きかけに先立ち、令和6年6月から令和6年11月までの6カ月間、市職員による「公共交通チャレンジデー」を実施した。また、令和6年12月には、環境負荷の軽減や職員の健康増進に資する自転車通勤を積極的に推進している団体として、名取市が東北自治体で初めて「自転車通勤推進企業」として認証・登録された。	<p>今後は、エコ通勤への取組について、市内事業者へ波及させるべく、啓発活動を行っていく必要がある。</p> <p>5月の「自転車月間」に、通勤・通学等においては、自転車利用が積極的に図られるようHPやSNS等で周知を行った。今後は、「自転車通勤推進企業」の取組を市内企業にも波及すべく、協議会等で周知を図っていく。</p>
			2-1-②	デジタル地域通貨を活用したインセンティブの付与	<p>【デジタル地域通貨を活用したインセンティブの付与】</p> <p>健康増進や環境負荷低減を意識した日常的な自転車利用を促進するため、自転車の走行距離に応じたデジタル地域通貨のポイント付与のほか、自転車による登録店舗への来訪者に対し、その店舗等でポイントを付与する仕組みを検討します。</p>	デジタル地域通貨「なとりコイン」の運用を令和6年8月1日から開始。ボランティア活動や講演会・研修会への参加、アンケートへの回答などに参加することで、「なとりコイン」がもらえる行政ポイント付与事業を開始したが、自転車利用促進のための、「なとりコイン」付与事業の実施には至らなかった。	自転車利用促進のための、「なとりコイン」を活用したインセンティブ付与事業の実現性について模索するため、引き続き、他自治体の先行事例の調査・情報収集を行う。
	2-2	日常生活での自転車利用機会の創出	2-2-①	自転車に触れる機会の創出	<p>【自転車の販売会・試乗会等の実施】</p> <p>サイクルスポーツセンター等で自転車メーカー等の協力による、通勤用自転車や、子ども乗せ自転車、ロードバイク、e-bike等最新モデルの展示会・試乗会の開催を通じて、自転車の利点を知ってもらい、一人ひとりのライフスタイルに合った自転車利用のきっかけづくりを行います。また、放置自転車のリサイクル販売等を検討します。</p> <p>【自転車利用による健康増進や環境負荷低減の情報発信】</p> <p>自転車利用に伴う様々なメリットに関する理解を深め、利用の更なる促進を図るため、自転車の魅力や自転車を活用した健康づくり、環境負荷低減への貢献に関する情報を市公式ポータルアプリ等で積極的に発信します。</p>	R6年度に開催したイベント「Natori Super Cycle Day」では、民間事業者による、かわまちてらす開上前を会場とした最新モデルを含む各種自転車の展示会及び試乗会を開催した。また、自転車利用による健康増進や環境負荷低減の情報発信については、サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHPでの情報発信を行うとともに、令和6年6月から年11月までの6カ月間、市職員による公共交通チャレンジデーを実施し、その中で、自転車利用を呼びかけた。	令和7年実施予定の「自転車利活用事業」では官民連携イベント等や近隣観光施設と連携し、「Natori Super Cycle Days」と銘打って、サイクル月間を設定することで、全市的に自転車のまちづくりをPRする。自転車利用による健康増進や環境負荷低減の情報発信については、引き続き、サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHPでの情報発信を行う。
			2-2-②	自転車購入等補助金制度の検討	<p>【自転車購入等補助金制度の検討】</p> <p>子育て世帯等に対する自転車購入補助金制度を検討し、自転車の所有を支援します。補助金の対象となる自転車には、利用者の安全性の向上を図るため、品質等に一定要件を設けます。「自転車通勤推進企業」宣言を目指す事業者に対し、従業員用駐輪場の確保に関わる補助支援等を検討します。</p>	他自治体の先行事例の情報収集を行ったが、補助金制度の創設について、具体的な検討には至らなかった。	子育て世帯が自転車をどの程度必要としているかを把握すること、他自治体の実施状況等を調査していく必要がある。引き続き、他市町村の取組について情報収集を行う。
			2-3-①	誰もが楽しめるサイクルイベントの開催・誘致	<p>【誰もが楽しめるサイクルイベントの開催・誘致】</p> <p>誰もがサイクルスポーツを見て、参加して、楽しめる機会を提供し、様々なサイクルスポーツを身近に感じることができるよう、多様な世代が楽しめる幅広い視点から検討したサイクルイベントの開催、誘致を図ります。</p>	R6度開催した「Natori Super Cycle Day」では民間事業者主催の「2024げんきNATORIママチャリ6時間耐久レースinゆりあげ」を同日開催し、10代前半から60代後半まで幅広い年齢層の参加者が集まった(参加者577名)。	令和7年実施予定の「自転車利活用事業」では官民連携イベント等や近隣観光施設と連携し、「Natori Super Cycle Days」と銘打って、サイクル月間を設定することで、全市的に自転車のまちづくりをPRする。その中で多様な世代が楽しめる幅広い視点から検討したサイクルイベント開催を図る。

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
持続可能なまち	2-3	サイクルイベントの開催、誘致	2-3-②	各種サイクルスポーツの実施の検討	【各種サイクルスポーツの実施の検討】 サイクルスポーツは、ロードレース、マウンテンバイク、BMX等自転車の種類や、実施する環境に応じて様々であり、多様な世代での人気が高まっています。サイクルスポーツを促進するため、宮城県や近隣市町、関係機関との連携・協力を図りながら、市内西側山間部やサイクルスポーツセンターを活用した競技の実施を検討します。	名取市サイクルスポーツセンターの指定管理者による自主事業でサイクリスト向けに早朝自転車練習会を行った(参加者414名)。また、宮城県高体連自転車競技部や宮城県トライアスロン協会等の団体への走路貸し切りを行った。(全16件) R6年度に開催したイベント「Natori Super Cycle Day」では、ママチャリレースや100キロライドイベント等、多種多様な自転車競技を実施した。	これまで同様、民間イベントの支援を継続するほか、関係機関と連携し、各種サイクルスポーツの実施に向け情報収集を行う。
	2-4	サイクルスポーツの振興	2-4-①	サイクルスポーツ団体等への支援	【自転車競技者の育成支援】 総合型地域スポーツクラブや関連団体、学校機関と連携し、サイクルスポーツへの取組、競技者の育成を支援します。 サイクルスポーツセンターを活用し、高校、大学、実業団チーム等の自転車合宿の誘致に取り組みます。 【自転車クラブの活動に関する情報発信】 サイクルスポーツの裾野を広げるため、市内の自転車クラブの活動等に関する情報発信を行い、活動を支援します。 自転車クラブにはサイクルイベントの参加や支援、自転車講習会の協力等において、地域活動の担い手となっていただくことを目指します。	自転車競技者の育成支援としては、名取市サイクルスポーツセンターへの団体客の継続的な受け入れ、合宿の宿泊先としての施設利用を行った。自転車クラブの活動に関する情報発信に関する取組としては、名取市サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHP上で、市イベントや各種コース(初心者向け～上級者向け)の情報発信を行った。 また、「Natori Super Cycle Day」では、宮城県サイクリング協会主催の「2024 MCA 秋の 100kmライド 名取・丸森」を実施し、市内のサイクリングチームの協力による自転車伴走支援を行った。	引き続き名取市サイクルスポーツセンターの情報発信を行い、自転車競技者団体の合宿の宿泊先として、施設利用の促進を行う。 自転車クラブ等の活動に関する情報発信については、市内自転車クラブと連携し、サイクルスポーツセンターHPや名取市サイクルツーリズムHP上での情報発信を行っていくとともに、イベントへの参加を促していく。
	2-5	障がい者のサイクリング等の活動支援	2-5-①	障がい者がサイクリング・サイクルスポーツに触れる機会の創出	【自転車利用の周知・支援】 障がい者の支援団体等と連携して、障がいに対応した自転車利用の理解を促進するとともに、障がい者向け自転車利用講習会の開催や、自転車利用を支援する人材育成に向けた取組を支援します。 【ツーリング等イベントの開催】 障がい者の支援団体等と連携して、障がい者対応の自転車を活用したイベントの開催等、サイクリングやサイクルスポーツの実施に向けた取組を支援します。	名取市サイクルスポーツセンターにおいて、障がい者割引適用に向けて条例改正を行った(令和7年4月施行)。障がい者の支援団体と連携したイベント開催等の実施に至らなかった。	名取市サイクルスポーツセンターにおいて、令和7年4月より、障がい者の施設入場料無料化、自転車使用料および温泉入浴料の割引を実施している。 障がい者が参加しやすい自転車イベントの開催や障がい者の支援団体と連携した自転車利用の促進等については、先行自治体の調査を継続する。

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
安全・安心分野 一人一人が自転車のルール・マナーを守る安全で安心のまち	3-1	自転車利用ルール・マナーの普及・啓発	3-1-①	世代に応じた交通安全教室の開催	<p>【交通安全教室や各種イベントによるルール・マナーの普及・啓発】</p> <p>幼児から高齢者まで幅広い年代や障がい者に向けた交通安全教室の実施や、各種イベントでの安全利用の広報ブース設置等、自転車通行ルールの周知徹底を図ります。</p> <p>また、複雑と言われる自転車の交通ルールを分かりやすく伝えるよう配慮します。</p> <p>【サイクルスポーツセンターを活用した親子への自転車教室の開催】</p> <p>親子と一緒に体験・試乗し、安全な自転車の利用を楽しみながら覚える機会や、子どもを対象とし修了証や記念品を授与する講習会等の開催を検討します。また、幼児から自転車に慣れ親しむきっかけとなるイベントの実施も検討します。</p>	交通安全教室については、今年度は「保育所・幼稚園等 未就学児」が82回、「小中学校等 児童生徒」が17回、「高齢者等 一般」が5回 合計104回の交通安全教室の開催となり、交通ルールや安全な自転車の乗り方、ヘルメットの着用方法など、交通指導隊の実技を交えながら啓発活動を行った。また、名取市サイクルスポーツセンター指定管理者の自主事業で「子供向け自転車教室」や「乗れない大人の自転車教室」を実施。「乗れない大人の自転車教室」は小学校高学年や中学生でも参加しやすいメニューとして需要があった。	令和6年度は児童生徒に関連した自転車事故が25件発生した。各学校では交通安全教室のほか、発生件数の多い4～6月の時期や全校集会などの機会に教員から児童生徒に対し指導を行い、自転車利用ルールの周知徹底を図る。引き続き名取市サイクルスポーツセンター指定管理者による自主事業での自転車教室や各学校での交通安全教室の開催を通じて、幅広い年代に対し交通安全啓発を行っていく。
			3-1-②	地域や警察等との連携によるルール・マナー違反の防止・啓発	<p>【ルール・マナー違反防止の街頭指導】</p> <p>ルール・マナー向上のための街頭指導(車道左側通行、ながら運転、ライトの点灯、ヘルメットの着用、飲酒運転等)に警察と連携して取り組みます。</p> <p>【駐輪場や駅前による啓発活動】</p> <p>防犯意識向上を図るため施錠啓発や、迷惑駐輪、放置自転車等のマナー違反等の防止啓発を地域団体等と連携して努めます。</p> <p>【自転車点検の実施】</p> <p>民間事業者と連携した自転車点検を実施し、整備点検の重要性の周知や、整備不良による事故の防止を図る取組を検討します。定期的な点検整備の必要性の周知やTSマークの付帯促進を図ります。</p>	春と秋の交通安全運動期間中に、増田北地下道や名取北高校、宮城農業高校などにおいて、自転車通学・通勤者に対する啓発活動を行った。啓発品として反射材を配布し、ヘルメット着用や安全運転に関する呼びかけを行った。	ルール・マナー向上のための街頭指導(車道左側通行、ながら運転、ライトの点灯、ヘルメットの着用、飲酒運転等)に警察と連携して取り組む。また、春と秋の交通安全運動期間中に、名取駅西口や学校などにおいて、自転車通学・通勤者に対して啓発活動を行うとともに、反射材などの啓発品を配布し、ヘルメット着用や安全運転をしていただくように呼びかけを行った。
			3-1-③	看板設置等による安全対策	<p>【看板板設置による注意喚起・安全対策の実施】</p> <p>市内における自転車事故発生箇所、自転車ルール違反(違法駐輪含む)多発箇所への看板設置による注意喚起等を実施します。</p> <p>【事故多発エリアの「見える化」の実施】</p> <p>事故多発エリアを市公式ポータルアプリに表示する等、注意喚起を促す取組を検討します。</p>	事故多発エリアを市公式ポータルアプリに表示する等、注意喚起を促す取組を検討した。自転車ネットワーク路線の整備について、令和6年度補正予算で国庫補助の採択を受け、設計委託に向けた準備作業を行った。	引き続き事故多発エリアを市公式ポータルアプリに表示する等、注意喚起を促す取組について検討を行う。自転車ネットワーク路線の整備については、令和7年度より設計委託を行い、詳細な整備手法を検討・整理したのちに、矢羽根型路面標示等の整備と共に、サイクルルート(自転車走行空間)における橋りょう区間等の注意喚起が必要な箇所について、看板設置の検討を進めていく。
	3-2	安全・安心な自転車利用の支援	3-2-①	なとりサイクルサポーター(仮称)の創設	<p>【なとりサイクルサポーター(仮称)の創設】</p> <p>市民が自転車に親しみ、安全に安心して自転車に乗れる環境を整えていくため、「なとりサイクルサポーター(仮称)」の創設を検討します。</p> <p>サポーターは研修を受講したうえで登録を行い、自転車のルール・マナーを守っていただくよう利用者に声掛けを行う等の活動を行います。</p> <p>・思いやりステッカーの作成</p> <p>「なとりサイクルサポーター(仮称)」は、自動車に自転車を意識した運転を心がけてもらう運動の一環として、「思いやりステッカー」(自転車を追い越す際安全な間隔を取るよう促す表示)等を活用し、協力を呼びかけます。</p>	「サイクルサポーター」の創設について、名取市協働提案事業にて実施を検討したが、事業の委託先が見つからなかったことから、実現には至らなかった。	引き続き、課題整理や先行事例の情報収集に努め、どのような取組を行うことができるか、調査・検討していく。

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
			3-2-②	自転車用ヘルメット購入費補助による着用の促進	<p>【自転車用ヘルメット購入の補助】 ヘルメットの購入に対する補助制度を設け、着用を促進します。</p> <p>【自転車用ヘルメット着用に関する情報提供、普及啓発】 学校や地域に向けたヘルメット着用の必要性、正しい着用方法等の情報発信を行います。</p> <p>またヘルメット着用の啓発と併せて、自転車損害賠償保険等への加入促進に向けた啓発活動を行います。</p>	<p>令和6年5月1日より市民に向け、自転車用ヘルメット購入費補助事業を開始。市内対象店舗で購入した自転車用ヘルメット購入費の半額を補助するもの。(上限3,000円)</p> <p>【R6年度補助実績】 補助金件数:1,023件 補助金総額:2,975千円</p>	自転車用ヘルメット購入費補助事業を継続して実施する。
	3-3	避難手段、支援物資運搬等としての活用検討	3-3-①	避難・支援物資等の運搬手段としての活用	<p>【自転車による避難手段の検討】 災害発生時に、自動車の渋滞を避け、徒歩よりも迅速に移動できる自転車の活用を検討します。</p> <p>【災害時の自転車活用の検討】 支援物資の配布や巡回訪問・見守り等の被災者への支援活動について、災害の種類や復旧・復興等の状況に応じて活用することを検討します。</p>	R6に実施した津波避難計画の策定において、避難方法として「自転車避難」の検討をしたものの、最終的には最も避難速度の遅い「徒歩避難」が採用されたため、計画への反映には至らなかった。	防災講話において、自転車避難を含めたそれぞれの避難方法の利点等を説明すべく検討を進める。
ハード整備分野 自転車で市内全域を快適に移動できるま	4-1	安心して走行できる環境の確保	4-1-①	自転車ネットワーク路線の整備推進	<p>【自転車ネットワーク路線の整備推進】 自転車ネットワーク路線に位置付けた路線について、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成28年7月 国土交通省 道路局 警察庁交通局)」に基づき整備を進めます。</p> <p>「自転車道」、「自転車専用通行帯」による整備を検討しますが、現道の幅員が十分でない等、整備費用が過大となる場合は円滑な整備を進めるため、「車道混在」とし、矢羽根型路面標示により走行位置を表示します。また注意看板等を設置し、より安全な通行環境を整備します。</p> <p>自転車は車道左側通行が原則ですが、車道における走行空間の早期の確保が困難であり、自転車歩行者道により整備する道路は、歩行者と自転車の通行位置を視覚的に分離する等の安全性を高める方策を検討します。</p>	令和6年度補正予算において国庫補助の採択を受け、設計委託に向けた準備作業を行った。	令和7年度より設計委託を行い、詳細な整備手法を検討・整理したのちに、矢羽根型路面標示等の整備を進めていく。
	4-2	安全・快適な自転車走行環境の維持管理	4-2-①	自転車通行環境の適切な維持	<p>【自転車通行環境の適切な維持】 自転車道、自転車専用通行帯、路面標示等をした道路について、舗装等の状況を適宜把握し、サイクリストが安全・快適に走行できる環境の維持を努めます。</p>	市で行う道路パトロールに加え、令和3年2月より導入している「LINE通報システム」を活用し、市民にも道路状況について報告を求めることで、自転車通行環境の適切な維持管理に努めた。	令和7年度についても、道路パトロールに加え、「LINE通報システム」を活用し、自転車通行環境の適切な維持管理に努めていく。
			4-2-②	地域と連携した維持管理	<p>【地域と連携した維持管理】 沿道住民、事業所等との官民連携により、維持管理の向上を図ることを検討します。</p>	「道路ふれあい月間」の一環として、11月に「道の日ふれあいキャンペーン」を実施。 「道の日ふれあいキャンペーン」では、市職員と市内建設業者が協同で道路の清掃活動を行った。	令和7年度についても、「道の日ふれあいキャンペーン」等活用し、官民連携により、維持管理の向上を図る。
	4-3	自転車ネットワークの拡充	4-3-①	自転車ネットワークの適正化	<p>・自転車ネットワークの適正化 新たなまちづくりに伴い、新設される道路や道路拡幅等の機会を捉え、自転車道や自転車専用通行帯の整備、その他走行環境の改善を検討し、併せて自転車ネットワーク路線に関する見直しを行います。</p>	名取中央スマートインター周辺地区土地区画整理事業の実施に伴い、周辺の道路については、道路拡幅に合わせ、自転車通行帯を整備する方向で検討を行っている。	自転車ネットワーク路線に位置付けられている新設路線や既存道路の拡幅路線については、整備手法を検討し、路線整備と時期を併せて、自転車走行空間を整備していく。

基本目標	施策No	施策	事業NO	事業	概要	実施状況(令和6年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和7年度)
ち	4-4	利便性の高い公共交通の構築に向けた自転車環境整備	4-4-①	シェアサイクル導入に向けた検討	・シェアサイクル導入 鉄道駅周辺や公共交通機関に近接したエリア、商業施設等へのシェアサイクルの導入に向けた検討を行います。 ・公共交通との情報連携 導入に際しては、IoT技術を活用し、MaaSによる料金支払いの一体化に向けた積極的な検討を行います。	名取駅コミュニティプラザ等の指定管理者である、名取まちづくり(株)において、レンタサイクル事業を行っており、令和6年の実績は、381件となっている。(R5実績は415件) 名取市サイクルスポーツセンターのレンタル自転車の利用件数は、R6は44,399件で令和4年度の現状値からは減少している。 公共交通との情報連携について、具体的に導入の検討までは至ってないが、なとりんくるとナトぼたの連携について、システム事業者間で検討を行った。また、デマンド交通の予約システムやバスロケーションシステム等と連携した市民サービス拡充に向け、関係者間の意見交換会を実施した。	名取駅コミュニティプラザ及び名取市サイクルスポーツセンターのレンタル自転車利用を促すため、情報発信をさらに強化していく。 MaaSの実装については、今後も引き続き各事業者の意見・課題を整理し、MaaSに関する技術的な情報収集を継続するとともに、MaaSの実装に向けた検討を実施していく。